

エキスパート登録 専門家からの ワンポイント アドバイス

合同会社マネジメント・プラス 代表社員
中小企業診断士

川上実



【略歴】

私の経営支援のスタンスは、経営管理のサイクルである「PDCA サイクル」を確実に回すこと。そして支援者である私からの一方通行のコミュニケーションではなく、双方向のコミュニケーションを行うことで様々な気づきを得てもらうことです。製造業、商業、サービス業、どの業種・規模でも基本は同じです。

時間管理ができる人はすべてを制する

1. 成果を出す人とそうでない人との差

私が経営コンサルティングを始めて 25 年以上が経ちました。

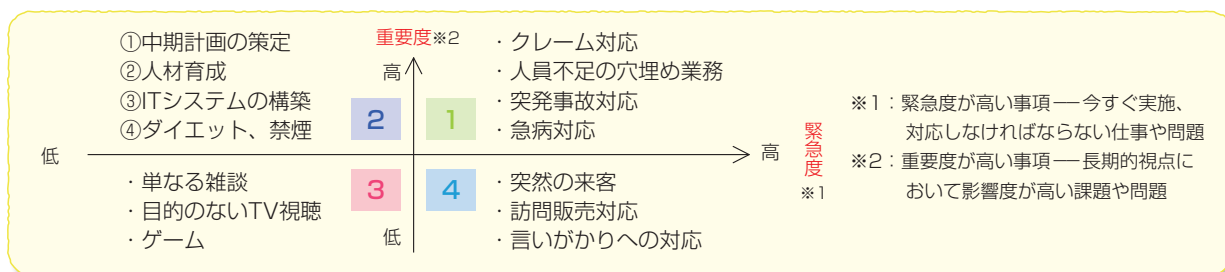
その間、多くの経営者や幹部社員、そして一般従業員と接してきました。その中には「業績を順調に伸ばしている経営者」や「組織課題を的確に解決している管理者」がいます。しかし、そうでない人々もたくさんいます。

成果を出している人々と、そうでない人々の差はどこにあるのでしょうか。

これまでのコンサルティング経験を通じて思うには、その差は「時間管理ができていないか？」にあります。なぜなら「時間管理ができれば、すべてを制することができる」からです。

2. 時間管理のマトリックス

時間管理のマトリックスとは、課された仕事や問題解決の優先順位を判断するためのフレームです。(下図参照)



時間管理の重要ポイントは、重要度が高く緊急度の低い「第2象限」に位置付けられる課題や問題に対して、いかに時間を確保するかです。

なぜなら緊急度が高い事項には、待たなしで対応せざるを得ません。しかし、第2象限に位置付けられる課題や問題は、緊急度が低い故に「急いで対応する必要はない」と判断します。ここが落とし穴です。

第2象限の課題や問題を放置していると、3年後、5年後に大きな影響が出てきます。

上の図と関連させると、それは以下のとおりです。

- ①経営環境変化に伴う経営基盤の弱体化 ②人材の能力不足 ③業務生産性の停滞及び低下 ④生活習慣の発病

3. 時間をうまく使えていない人の特徴

上の図で示した第1、4象限の事項に追われ、第2象限対応の時間が確保できていない人が「時間をうまく使えていない」と言うことができます。ましてや第3象限に多くの時間を使っている人は論外です。

例えば、私が複数回のプログラムで経営コンサルティングを行う時に、経営者に2週間後までに「自社を取り巻く市場環境分析をしてください」と宿題を出します。しかし、それをやらない経営者がいます。その理由を聞くと、「仕事が忙しくてできなかった」と言います。

重要度と緊急度が理解できていれば、宿題をやらない理由はないと思いますが・・・。

ちなみに、第2象限対応の時間をうまく作って、経営計画の策定・実行管理、また人材育成を継続的に行えば、第1象限への対応時間は減ってきます。

4. 時間をうまく使うために

上の図のマトリックスを頭の中に叩き込み、第2象限対応の時間を意識して作る。これだけでも時間管理が充分うまくできます。

そして、気が付けば成果が出ているはず。そして、

とにかく「時間管理ができる人はすべてを制する」です!! 自戒の念を込めて、私も肝に銘じて仕事をしていきます。

エキスパート・バンクとは？

各分野の専門家が、経営上・技術上の様々な問題に対して、直接事業所を訪問し、問題解決に向けての支援・アドバイスを行います。

例えば、

ターゲットとする顧客層に最適なSNSの活用方法を知りたい。
クラウドサービスの導入に当たって、運用ルールを決めておきたい。
といった取組みを応援します。

1テーマ2回まで無料となっておりますので、ぜひご利用ください。

■ ご相談・お問い合わせは、最寄りの商工会まで ■